TOWN NEWS SPECIAL EDITION

保土ケ谷 × 企業

次世代を担うリーダー達

地元企業の将来像を探る

経師　ひらいし

平石　匠

一級表装技能士　25歳

プロフィール

「経師（きょうじ）」と呼ばれる、掛軸や屏風（びょうぶ）等の表装を手掛ける専門職の中で、最も高い技術を保持する者に与えられる「一級表装技能士」の資格を、弱冠25歳で取得。高い信用と技術で約半世紀にわたって区内・東川島で表装に関する仕事を請け負っている『ひらいし』の三代目として、師匠でもある父・修氏の志を受け継ぐと共に、業界全体の発展を願い日々、腕を磨き続ける。地元・桜丘高校（弓道部）出身。趣味はスノーボード、ツーリングなど。家族構成は両親と2人の姉（共に結婚）。座右の銘は「職楽」。

【経師　ひらいし】
保土ケ谷区東川島町20－29　☎045-383-6030（代表）

父から受け継ぐ『職楽』の素晴らしさを後世へ

父の仕事を間近で見ていたものの、後を継ぐことは考えていなかった中学生の頃、あるお客様が思い出の詰まった品物をお持ちになりました。汚れや傷がひどく修復が難しい物でしたが、何とか仕立て直しが完了。その方は涙を流して喜ばれていました。当時、父が良く口にしていた『職楽』という言葉の意味（仕事を通してお客様と共に喜びを感じ、また楽しめる事）を、この時初めて知ったのです。と同時に父の仕事を継いでいけるのは、近くで仕事を見て学べる自分しかいないと考えるようになりました。

高校卒業後、奈良での住み込み修行や、父の下での技術研鑽（けんさん）を経て今年「一級表装技能士」の資格を取得しましたが、私はこれがスタートだと思っています。それは高校（弓道部）の恩師に「昇段したという事は、前の段に相応しいと認められたということであり、新たな段を学ぶ資格を得られたということだ」と教わったからです。なので、やっと一級に見合う仕事をする資格が持てたに過ぎず、先を目指し更に精進しなければなりません。

その一方で、3月の東日本大震災を機に、人や地域との関わり合いについても改めて考えました。仕事柄、個人のお客様と接する機会が多い利点を活かし、何でも気軽に相談に乗れる存在となる事で地域に貢献する事や、地元イベントなどを通じて物づくりの面白さを子ども達に伝える取組みなどを行っていく事が、当面の目標だと思います。また同業組合の「横浜表装インテリア協会」が祖父の時代から執り行っている「刷毛供養」についても、再来年に迎える40周年という節目を前に、脈々とその伝統を受け継いでいく事も、大切な役割だと考えます。

私自身は、技術のみならず多くの知識や教養を身に付け、多くの方に喜んでもらうことで恩返しをしていけたらと思います。そして、将来的には保土ケ谷の皆さんに親しまれ、各ご家庭の思い出を守り続ける手助けをしていける、そしてどんな小さな仕事でもお客様と共に喜びを感じられる―。そんな仕事をしていきたいと思っています。